

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
今まで語学留学に行ったことはあったのですが、その時の語学学校は正直少しレベルが低かったため、よりレベルと質の高いプログラムに申し込みたいと思ったからです。大学を通じて申し込むプログラムだったため、他のプログラムよりもレベルが高いのではと思ったことも理由の一つです。さらに昨年は語学留学でオーストラリアに行ったので、環境が似ているニュージーランドを選ぶことで、他の国よりも準備や適応がしやすいのではないかと考えたからです。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など)
昨年もオーストラリアに語学留学をしたので、この留学に向けて何か特別なことをするということはありませんでした。ただ二年生の後期から大学の通期のプログラムである国際教育プログラムに申し込もうと考えていたので、それに向けての TOEFL ITP の勉強、さらにオンライン英会話を通じてのスピーキング能力の向上を続けていました。渡航先の情報収集などは ACEJ のパンフレットなどを見るのみで自分から調べることは特にしませんでした。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
授業は平日のみで毎日朝8時15分から始まります。授業は一コマ二時間で間に15分の休憩を挟んで1日にふたコマ授業を実施します。授業開始時刻は日本の大学と比べてかなり早いため授業の終了時刻も早いです。授業の時間自体も二時間と普通の授業に比べると長めで集中力を保つのが少し難しい時もありました。授業内容に関して、一コマ目は文法やリーディング、ライティングに関する授業で、テキストを利用して授業を進めます。たまに宿題が出ることもありますが、30分もかからずに終わられるような軽い宿題がほとんどでした。ふたコマ目はスピーキングの授業で、基本的に紙のテキストは用いず、インターネットのページ上にアップロードされたものを利用してそれに関するディスカッション、グループワーク、ペアワークなどを進める形式でした。席は授業の回を追うごとになんとなく固定されていきますが、基本的には自由で、たまに先生によって席替えが行われることもあります。グループ活動がしやすいような席の配置になっています。生徒の様子は正直九割が日本の学生だったので日本とあまり変わりませんでした。日本の授業に比べるとかなり自由で緩い雰囲気でした。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
私は学校を通じてのアクティビティにはほとんど参加せず、自分のルームメイトやホストファミリーといういろいろなところに遊びにいきました。近くにあるファームやビーチや滝、島、さらには都市部にある観光名所などに遊びにいきました。どれもそれほど遠く離れているわけではなく、人も多すぎることがなかったので日本の観光地と比べるとかなりのんびりと楽しむことが出来ました。自然が本当に多く綺麗で、都市部も整備されていて観光しやすかったのもう一度観光だけでもいきたいと思うほどでした。
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など)
自分が昨年語学留学をしたこともあり、生活において大きなトラブルは特にありませんでした。ただ季節が

逆に風邪をひいてしまったのでそこだけが少し心残りです。ニュージーランドは思っていた数倍便利でとてもいい国でこのままずっと滞在したいと思えるほど快適な場所でした。(気候に関しては日本とかなり違っているのでそこだけは注意しないとイケませんが) 同じプログラムの参加者であるクラスメイトとはそこまで深く交流しませんでした。ルームメイトとはとても深いいい関係を作ることができました。治安はとてもよく、多くの人が電車やバスで寝ているほどでした。街の中も綺麗で活気があり、とても過ごしやすかったです。ホストファミリーはとても若く毎日疲れ果てるほど忙しそうだったので、自分が想像する数倍慌ただしい毎日でしたが、小さい子供たちと遊んだりアクティビティをしたり喋ったりすることはとてもいい経験になり本当に楽しかったです。少しだけ部屋が汚かったためそこが若干嫌なところではありましたが、それも含めていい経験になりました。食事に関して、ニュージーランドには伝統的な食事というものがないため、日本食を含めて様々なものを食べることができました。食事が若干足りないと思うことはありましたが、胃もたれなどは全くせず、毎日夕食のメニューを予測するほどには食事を楽しむことができました。

参加学生のサポート体制について(プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など)

ACEJ からは頻繁にメールを送っていただき常に安心感を得ることができました。現地の学校の人にお世話になることはそこまでなかったのですが、何か聞きたいことがある時は気軽に聞ける環境が整っていてとても良かったです。クラスメイト同士で協力することがとても多く、何か聞きたいことがあった時にクラスメイトに聞くと誰かしらが答えを教えてくれたのでとても頼りにしていました。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果(英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など)

このプログラムを通じて特に自分のスピーキング能力、そして積極性を向上させることができました。私はこの滞在中特にルームメイトと仲良くしていたのですが、ルームメイトとは常に英語で話していたため、それによって特に日常会話において言いたいことをほとんど英語で伝えられるようになり、前よりも自分の英語にかなり自信を持てるようになりました。また積極性に関して、去年の語学留学では自分がわかるころがあっても自分の英語への自信のなさや積極性のなさから授業内で発言できないことがかなり多かったのですが、今回の滞在では授業内で積極的に発言しさらに自信をつけることができました。

異文化理解や他の参加者との交流については正直いい方法を見つけられたとは思っていないのですが、とにかく自分の英語に自信を持って会話を楽しむことが最善だと現時点では思っています。

プログラム参加費・渡航費等の費用について(プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど)

円安であることもかなり影響しているとは思いますが、正直昨年の語学留学と比べて費用がかなり高く驚きました。ただ昨年と比べるとかなり高いレベルの授業を受け、様々ないい経験をし、そして高い英語力を持つルームメイトといい関係を築くことができたため、高額ではありつつも妥当な金額かなと感じました。

次年度の参加者へのアドバイス 指定なし

夏休み中の留学では日本人の参加者が必然的に多くなってしまいますので、とにかく日本語を使わずに英語を使うことに集中するのが本当に大事だと思います。自分の英語力に自信がないとどうしても日本人の学生同士で集まって日本語を使うということが増えてしまいがちなため、それをできるだけ避けてとにかく英語を使う環境に身を置けるように頑張ってください。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
英語が好きだったので、海外の文化や生活を体験するとともに自分の英語力を試してみたいと思っており、短期で治安の良いニュージーランドで学べるこのプログラムを選びました。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など)
ネイティブがよく使うイディオム・単語集をひたすら回しました。普段聴いている洋楽の歌詞を見ながら聴いたり口ずさんだりしました。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
私は二週目に Upper-Intermediate クラスから Advanced クラスに変更したため、両方の様子について書きます。一週目の Upper クラスでは、生徒の18人中16人が日本人で正直驚かされましたが、授業はもちろん全て英語で行われ、全員が英語を喋るようにしていました。授業は8時15分から12時30分までで、毎朝6時くらいに起きていました。午後からは街に遊びに行けたりしたので、1日の時間を有意義に使うことができました。しかし、授業で扱う内容がほとんど日本でやってきたものと変わらなかったため、相談をして Advanced クラスへ変更してもらいました。Advanced クラスは授業が午後1時から5時15分まであり、朝は家でリラックスできます。授業内容は非常にレベルの高いもので、テキストで扱う語彙や文法などは大学入試を思い出させるものでした。また、ネイティブが使うイディオムをたくさん学ぶこともできました。毎授業ひとり4、5回は当てられて発言する機会があり、4技能の全てをフル活用して授業に臨むといった感じでした。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
授業で作成した観光マップをもとに、実際に他のクラスの人たちの観光ガイドをした授業はとても印象に残っています。
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など)
ホストファミリーは、とても親切でかつ干渉的すぎないちょうど良い距離感だったので、一人っ子の私にはありがたかったです。食事の時にたわいのない会話をしたり、英語を教えてもらったり、ニュージーランドでの生活などについて聞くことができました。また、ホストファミリーが人懐っこい猫を飼っていたので、予定のない午前中などは一緒に遊んだり昼寝したりできました。ホームステイ先は徒歩数分に商店街のある

宅地で、バス停もとても近かったので、昼食を買って学校へ向かうことが多かったです。
参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
オークランド大学生と対話できるアクティビティーがありました。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など）
英語の4技能でいうと、今回のプログラムで最も伸びたのはやはりスピーキング力です。約一ヶ月間日本語よりも英語を多く使う環境に身を置くことで、自分の考えを英語ですばやく表現する訓練ができました。先生やホストファミリーが使った知らない表現などを、メモしたり繰り返し呟いてみたりして、その表現が使われたシチュエーションごと記憶してしまうのが効果的だったと思います。現地学生や他国の参加者との交流に関しては、語学学校主催のアクティビティーに参加できましたし、日本人以外のクラスメイトが比較的多くいたこともあり簡単に交流することができました。また、異文化理解の観点からも、他国のクラスメイトと授業内外で会話をする中でさまざまなことを学ぶことができました。
プログラム参加費・渡航費等の費用について(プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど)
決して安くはありませんが、額面以上の豊かな経験ができたと確信しています。
次年度の参加者へのアドバイス
英語が好きであれば思い切って参加してみるといいと思います。年齢や学年も気にする必要はありません。クラスには 19 歳から 26 歳までさまざまな年齢・学歴の人がいました。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
中学生の頃から留学に行きたいと思っており、大学生になってから留学について調べていた。そこでまずは短期留学から始めてみようと思い探していると、ニュージーランドとアメリカへの短期留学のプランを見つけた。そのうち、ニュージーランドの方が自然が多くあり、その上ニュージーランドは10万円の寄付があるということも知り、お金がたかさんかかることからニュージーランドに決めた。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など)
ニュージーランドの気候や、コンセントの形や電圧などを調べた。ニュージーランドでのマナーについて事前に調べた。日常会話でよく使われるフレーズなどをメモ帳にメモっておいた。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
8:15から授業が始まり1コマ2時間で1日に2コマずつあった。Lesson1では主にテキストに従って授業を進め、文法、スピーキング、ライティングなどを中心に学んだ。私の印象としては日本は静かに先生の話聞き続けることが大切だという印象がある。ニュージーランドではそのような静かな授業ではなく、常にクラスメイトと意見を交換し合い学びの多くある授業だと感じた。逆に積極的に発言するほうが良しとされている雰囲気はすごく素敵だと思った。私の成績表には静かな生徒だと書かれていたが、私なりにたくさん発言したつもりでいたが、もっと発言すればよかったなと思った。もちろんだが授業中は全て英語で進むため、集中力も身についたし、英語を聞いて理解しなければ授業についていけないため、英語を聞き続ける能力も向上したと思う。Lesson2ではLesson1よりもより学術的なことを学び、artやidentityを描写する言葉を学んだ。Artについてはクラスメイトで美術館に行き、好きな絵を一枚選んでそれを描写するという授業だった。ディスカッションの際に有効な言葉などのイディオムをたくさん学べた。実際にディスカッションも行ったのだが、これは少し難しかった。日本語でディスカッションを行う時でさえ自分の意見を発表するのは難しいのに、英語になるとより難しかった。参加生徒はみな英語に対する探究心があり一緒に授業を受けていてとても刺激をもらった。わからない英語を英語で理解することがとても新鮮で楽しくかった。これから英語の言葉を学ぶときは英語での説明を読んで英語で理解していきたいと思った。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
始めてラグビー観戦に行った。ラグビーはニュージーランドの国民的なスポーツなため、スタジアムへの行き帰りの交通費は無料になることに驚いた。学校で行われているアクティビティに多く参加した。その中でも楽しかったのがMeet2chatというオークランド大学の生徒さんとお話ができるというアクティビティだった。そこで現地のお友達を作ることもでき、とても貴重な体験だった。

現地での生活について（参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など）
他大学の生徒さんたちとの交流ができ、学んでいることや考え方なども様々あり、とても刺激をもらった。ホームステイ先はすごく暖かい家庭で毎日楽しかった。小さな子供が2人いて、毎日夜寝る前に一緒に遊んだ。カードゲームをしたのだが、英語の動物の名前のゲームなどで、私にとってすごく勉強になった。ニュージーランドはバスが多く通っているのだが、バスに乗る際に hello や good morning など挨拶をして乗り、降りる際には thank you と乗る人ほとんど全員が言うのを見た時、すごく暖かい国だなと思った。すごく安全な国で、現地の人々も話しかけてくれ、楽しかった。
参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
クラスメイトと授業の内容についての確認をしたり質問をしあったりして英語の理解を深めることができた。オークランド大学の受付にいる方々もすれ違ったら話しかけてくださってすごく嬉しかった。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など）
1 番印象に残っていることは、自分の英語が英語話者の方々に通じると言うことだった。日本にいる間は英語の勉強をすることしかできなくて実際に使う機会がすごく限られていたため、英語を使っている時間がすごく好きになった。英語でしか通じ合えない状況で英語を使って会話をし、その会話がどんどん進んでいくのはすごく嬉しいことだった。私が4技能の中で1番向上したと思うのはリスニング力である。完全に英語で授業が進むため英語を聞き取れなければ授業についていけないので英語を聞きとることを意識して毎日過ごしていた。最初は少し大変だったのだが、2週間ぐらい経つと英語を聞いて理解することに困らなくなった。また、スピーキング力も向上したと思う。英語を聞いて比較的すぐに返事をするができるようになり、英語が出てくるスピードが上がったように感じる。英語を英語で理解するという勉強方法はとてもいいと思う。英語しか使わない状況の方がはるかに学力は向上すると思う。
プログラム参加費・渡航費等の費用について(プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど)
英語でしか意思疎通ができないと言う状況や、ホームステイでニュージーランドでの生活ができたことなどを踏まえると、費用は妥当であると思う。
次年度の参加者へのアドバイス
私は初め、留学と聞くとすごく硬い感じに聞こえ、英語が話せないと行ってはいけないと感じていました。しかし勇気を出して行ってみると全然そんなこともなくて私のように話せない状況からどんどん学んで意思疎通が出来るようになることができました。なので少しでも留学に興味を持ったならばぜひ参加してほしいです!!! 私はこの留学ですごく素敵な経験をさせてもらうことができましたと思っています!

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
私は、新型コロナウイルスの影響で高校時代海外に行くことができず心残りだったため大学ではできる限り早く留学して、英語のリスニングとスピーキング力を向上したいと考えていた。 ホームステイ形式なので、1日中英語が喋れる環境だと考えたから。またホストファミリーと会話できるので初めての一人の海外でもあまり寂しくなさそうだと考えたから。履修要件がなかったためチャレンジしやすかったから。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など)
語学学校やホストファミリーとの意思疎通を要するため、英会話似通ってフレーズを学んだ。また、プログラムは異なるが留学に行かれていた先輩の話の聞いたり、不安なことやわからないことの相談に乗ってもらったりしていた。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
私の場合、授業は午前中のみだったので、午後から友達と周辺のカフェや観光施設、大学の図書館など学校の先生やホストファミリー以外のネイティブの方々と話す機会ができ英語を勉強しながらオークランド市内を堪能できた。また、このプログラムを通して積極性が上がったと思う。というのは授業の内容のほとんどがグループワークで、自分の意見を発言することで授業が進むので、半ば強制的に発言をしなければならぬ状況に置かれていた。プログラムの最初の方は恥ずかしさや間違えたらどうしようというためらいがあったが、終わりの方になると積極的に発言するようになっていた。加えて、先生からのフィードバックやアドバイスが手厚くわかりやすかった。最終週のテストのフィードバックももちろん、毎授業先生が各テーブルに回って意見を聞いてくださったり、発音、フレーズを修正してくださったのが自分の英語を改善しやすかった。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
オークランド市内にある植物園に行った。クラスが異なる方々と交流できるので良かった。特に国籍も年齢も全く異なる人と話す機会ができ仲良くなれたのは授業以外のアクティビティに参加しないと得られない経験だと思った。
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など)

ホームステイ経験のある先輩から、必ずしもホームステイ先が良いわけではないということを聞いていたので初めは緊張していた。また英語もうまく伝えられずあまり話せなかったが、ホストファミリーがとても優しくコミュニケーションを取ろうとしてくれて良かった。またホストファミリーは英語が母語ではなかったので、英語をどのようにして勉強したか教えてくれたり、会話中に類義語を教えてくれた。いつも私のことを気にかけていただきとても素敵なホストファミリーに出会えた。プログラム中大変だったことは、バスや電車が急になくなったり本来ならば停車する駅を通過して最終駅まで飛ばされたりしたことである。これはニュージーランドでは良くあることらしく、焦らず冷静に帰り道を考えることが要された。

参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）

学生は同じ環境にいるのでよく日常生活のことや参加できるプログラムを紹介し合っていた。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など）

まず、最も時間しているのはスピーキング力が向上したことである。特に日常会話においては全く吃らなくなり比較的スラスラ話せるようになったと実感しており、ホストファミリーからも以前よりも流暢になったと言っていた。間違えたり、相手に通じなかったときはどこが間違えているのか、どう言えば良いかを聞いていたので改善しやすかった。異文化交流に関しては、学校では他の国の方と文化の違いについて話す程度であったが、ホストファミリーを通してたくさん経験できた。ホストファミリーは元々フィジー出身であったため、フィジーの伝統料理や言葉、儀式を身をもって学べた。またホストファミリーはヒンドゥー教を信仰されていたので伝統衣装を着てお寺に連れて行ってもらい、お話を聞いた。ヒンドゥー教の礼拝などの儀式は信者でない限り入れさせてもらえないことが多いらしいため、とても貴重な経験ができた。初めての経験ということもあり少し怖いイメージを持っていたが、全く怖いことはなかったため、何も知らないのにイメージだけで判断してはいけないと身をもって感じた。

プログラム参加費・渡航費等の費用について(プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど)

空港までの送迎、ホームステイ先のサポート、徹底した英語環境が含まれているので、妥当な費用だと考えた。

次年度の参加者へのアドバイス

周りの方々、特にホストファミリーに対して感謝の気持ちを忘れず楽しんで欲しいです。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
一番大きな理由は、公用語が英語の国の中で、お手頃な値段で行けると思ったからある。 また、ニュージーランドは自然も豊かでアクティビティーも多いことから、体を動かすことが好きな自分にとって楽しみながら英語を学習できると思ったことも、ニュージーランドを選んだ要因の一つである。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など) 指定なし
まず行ったのは英語の学習である。特にスピーキングに苦手意識があったので、オンライン英会話にて少し練習をした。また、ニュージーランドの歴史や環境についても事前に調べ、いち早く現地の文化を理解できるよう努めた。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
授業で印象に残ったのは、特に双方向の授業スタイルだった。講師が授業中に頻繁に質問を投げかけ、生徒が積極的に発言することを求められる点が印象的だった。講師の質問に対して、生徒たちは自由に意見を述べるのが奨励され、どんな意見も否定されることがなかった。これにより、学生たちは遠慮せずに自分の考えを表現できる雰囲気を作られていた。このような環境は、学生たちの参加意欲を高め、活発な議論を促進していた。さらに、授業の形式としては、クラス全体に対する発表が週に一度行われ、各学生が自分の研究や意見をプレゼンテーションする機会が与えられていた。この発表は、学生たちが自分の理解を深め、また他の学生の視点を学ぶ貴重な機会となっていた。ホームワークの内容も、単なる問題集の解答ではなく、自己の意見や分析を含む課題が出され、実際に使える知識を深めることができた。日本の授業と比較するとより参加型であり、学生一人ひとりの意見を大切に作るスタイルが新鮮で、学びの深化を実感できた。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
南島への小旅行が一番印象に残っている。クライストチャーチは、古くからのブリティッシュ建築が残りとても魅力的で、かつ2011年の震災からの復興という力強さを体感できた。 また、テカポ湖では、今まで体験したことが無い、文字通り満点の星空を眺めることができ、非常に貴重な体験をすることができた。
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など)
ホストファミリーはトンガ出身で、彼らの英語には独特のアクセントがあった。最初は英語に自信がなく、

コミュニケーションに苦労したが、粘り強く話しかけ、聞き逃した部分は遠慮せずに再度確認することで、徐々に関係が深まった。彼らはとても親切で、地元の文化や日常生活について多くのことを教えてくれた。滞在先の環境は、静かで自然に囲まれており、リラックスできる場所だった。カルチャーショックも感じたが、現地の人々との交流を通じて徐々に慣れることができた。日常生活での小さなトラブルや安全面にも気を配りながら、充実した滞在を送ることができた。

参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）

現地のコーディネーターやチューターに関して、自分は利用しなかったが、きっと手厚いサポートを受けることができると思う。学生同士の交流に関しては、非常に盛んであった。というのも自分のクラスは午前中に授業が終わるため、午後友人で出かけるのが恒例であった。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など）

一番大きな成果は、英語を喋ることに對するためらいがなくなったことである。完璧な英語でなくても、自信を持って粘り強く話すことで、相手に伝わるということを実感した。これは、英語が母語でない方と話す中で強く感じたことであり、コミュニケーションを取るためには、世界の共通言語である英語を学ぶことがいかに重要かを痛感したからだ。1ヶ月という短い期間で、留学前に抱いていた「ペラペラ喋れるようになるだろう」というイメージにはまだ遠い結果となった。しかし、この短期間で得られた実践的なスキルや自信は、今後の英語学習や国際的な交流において大きな財産となるだろう。この経験を通じて、英語の使い方に対する理解が深まり、言語に対するアプローチも変わった。

プログラム参加費・渡航費等の費用について(プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど)

現地の物価は、予想通り高い。また、ニュージーランドは主要な観光地が非常に離れているため、行くためには現地のツアーに参加しなければならない。

そのため、プログラム参加費や渡航費とは別に、現地で使う分のお金も準備しておく必要がある。

次年度の参加者へのアドバイス

語学学校には、全員がアジア人かつほとんどが日本人です。

なので、現地の人と交流するためには、インスタでDMを送ったり、公園で遊んでいる人に話しかけたり、自分から積極的に行動した方がいいです。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
大学の授業やアルバイトの経験から自分の英会話能力の不足を痛感したため、英語圏での短期留学を決めた。去年参加した友人が良い経験になったと評価していたためこのプログラムを選んだ。ニュージーランドが比較的治安が良いことも決め手となった。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など)
渡航先の気候や特産品、有名なものをインターネットで調べた。また、ニュージーランドで撮られた映画、『ロードオブザリング』を視聴し、渡航先の国を知るとともに英語の勉強にも役立てた。定期的に ACEJの方がリマインドのメールや留学の情報を送ってくださったため、準備についてはそれに従った。自分でも留学経験のある友人やインターネットで情報を集めて渡航に備えた。語学学習については、私はリスニングが最も苦手だったため英語のニュースや映画を見てリスニング能力の向上を図った。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
授業は8時15分から始まり、2時間の授業が15分の休憩をはさんで2コマで12時半に終了というスケジュールだった。授業の内容は高校の英語の授業と似ていて文法なども難しくないが、先生の英語の説明を聞き取るのが大変だった。最終週にテストやプレゼンテーションの授業があり、テストや平常点から成績が出された。クラスのほとんどが日本人だったが、校内では全員英語で話さなければならないため良い経験になった。ただ日本語ばかり話す人もおり、英語を話す機会は自分から作りにいかなければならないと感じた。私のクラスではホームワークはなかった。先述のとおり日本の高校の英語の授業に似ていたが、ディスカッションやペアで会話するようなアクティビティが多い点が異なると感じた。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
学校で Meet2Chat というオークランド大学の学生と少人数で実際に話すことができるアクティビティがあり、英語力の向上に役立った。やはり日本人同士が英語で会話していると和製英語でも通じる上に、わからないときは日本語に頼ることができるため、日本語のわからないネイティブの方と話す機会は貴重で価値のあるものだった。また、学校のアクティビティでハイキングや観光地巡りのちょっとしたツアーもあり、友達作りや文化体験もできた。
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など)

現地にはフレンドリーな人が多く、街中でも軽い挨拶や会話をしてくれる人が多かった。特に飲食店やお土産屋の店員さんが良く話しかけてくれる。最初は戸惑って緊張するが、そのうち慣れて楽しくなる。ホストファミリーは本当に親切な人で英会話の練習にも付き合ってくれ下さり、ご飯もおいしかった。社会問題や宗教のことなどちょっとした議論をするのが好きな方で、大変いい勉強になった。おかげさまでホームシックなどもなかった。ニュージーランドは様々なルーツを持つ方が住んでおり、ホストファミリーもインド系や中華系の人が多かった。最初は不安に思っていたが私も多くの友達も楽しいホームステイ生活を送ることができた。安全面については、ニュージーランドは治安が良い国ではあるもののやはり夜は危険だと感じた。

参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）

渡航前も渡航中も頻繁に ACEJ から連絡があったため心強かった。学校のクラスが 20 人の固定クラスなので不安な時に助け合える友達も作りやすかった。また学校に常に相談できる窓口があり安心だった。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語の 4 技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など）

プログラムを通して、特に英語のリスニングスキルが向上したと感じた。授業中はもちろん店や街中での会話によって英語を話したり聞いたりすることへの抵抗感がなくなったように感じた。学校の授業以外にも授業後に学校の友達と図書館に行って勉強したり英語で会話したり、寝る前や通学中に英語のポッドキャストを聞いたりした。他にも、その日学んだ単語をノートにまとめてその後に積極的に使うようにした。またホストファミリーと積極的に会話することは英語力の向上はもちろん、異文化交流にもなって良かった。また学校でできた韓国人の友達を通して現地にいる韓国人の方やその友達のオークランド大学の学生と知り合うことができた。ほかにも語学学校ではなくオークランド大学の学校行事に参加して学生と知り合うなどした。

プログラム参加費・渡航費等の費用について(プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど)

正直参加費・渡航費は高いと感じた。特に渡航費は直行便であるためか他校の人と比べても高く、乗継便でもよかったように思った。ただ現地は物価が高く、またホームステイ先も温かい環境であったので価格分の価値はあると感じた。留学費の細かい内訳をいただけるとありがたかった。

次年度の参加者へのアドバイス

留学中の記録(日記や写真など)はつけておいたほうがいいです。また、自分の英語レベルについて他の人と比べたり色々考えたりするとしんどくなるので、毎日できるようになったことを自分で見つけるのがいいと思います。一か月は本当にあっという間なので、やってみたいことなどあれば後ではなくすぐにやることをお勧めします。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
海外に今まで行ったことが無かったので行ってみたいという気持ちと、英語が第一言語の土地で英語を話してみたいという思いから留学を決意した。留学の中にも種類があるが、とりあえず行きたいという気持ちが強かったため短期留学をすることにした。その英語プログラムの中で京都大学が支援をしてくださるプログラムがこのオークランド大学のELAへのプログラムだったため、このプログラムの参加を希望した。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など)
大学の勉強やバイト、他の活動で多忙だったため、実をいうとあまりしっかりとした準備はできなかった。しかし、過去の英語学習で培った自分のスキルを信じ、必要最低限の渡航準備や書類提出はしたうえで留学に望んだ。後はしっかりと行く覚悟だけは決めたという感じである。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
平日は私のクラスは午前中に約4時間授業があり、午後はアクティビティや自由時間という感じだった。授業はペアワークやグループワークなど、主体的な参加を求める形式がほとんどであった。英語の4技能で言えば、リーディングやライティングの時間も合ったが、比較的スピーキングとリスニング(特にスピーキング)が中心だった気がする。講師は英語話者であり、授業はもちろんすべて英語で行われた。授業での発言を積極的に求められ、参加学生もそれに積極的に応えるというような形であった。参加学生はちょっとした単語の意味の違いや講師が口にこぼしたスラングなどについても質問し、講師もそれを歓迎する様子で真摯に答えてくれた。日本よりも発言や質問がしやすい環境であった。ホームワークは週に一回でるかでないかと、プレゼンの準備やポキャブラリークイズ(definitionとexample sentenceを答えるテスト形式のもの)準備などがあつた。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
放課後にstudent experienceというELA主催のイベントに申し込むことができ、それをReserveした生徒は参加できるという形式だった。すぐ定員になってしまい予約できない人も多発していたが、私は早くに表示されているほぼすべてのstudent experienceを予約した。Meet2chatというイベントでは、現オークランド大学生と英語で雑談をするイベントであり、リスニング力とスピーキング力向上に役立った。Tutorialsというイベントは、ELAの職員の方と1対1で英語や授業に関する相談ができるものであり、自分は特別悩みなどがあるわけではなかったが英語を話すいい機会だと思いおすすめ教材などを尋ねたりした。知らない有用な海外の英語学習ツールを教えてもらったので良かった。
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など)
参加者の日本人の割合が思っていたよりもとても高かった。現地の人々との交流は、ELAではない大学の施設やイベントに自分から行って話すなどしないとなかなか難しいものがあつた。ホストファミリーはフィリ

ピン出身のご夫婦で、とても暖かく歓迎してくれた。とてもお家を綺麗にされていてデザインも素敵なものだった。ご飯はフィリピン系の料理が多く、とても美味しかった。ホストマザーは運悪く足を骨折されていてあまり動けない状況だったため、ホストファザーが家事や料理をすべて行っていた。「手伝うよ」と言っても「大丈夫だ、休んでなさい」と笑顔で言うという感じ、でとても献身的であった。でも同時に放任主義のような雰囲気もあり、とても自由に生活させてもらった。Homestay student は私の他にもう一人日本人の子が来ており、二人で助け合いなさいという感じだったため、カルチャーショックやトラブルは特に無かった。しかし日本人同士だとどうしても微妙なニュアンスを出したいときなどに日本語で喋ってしまうときがあり、トラブルはないものの英語運用能力上達のために来ている身としてはなかなか難しい状況にあった。しかしできるだけ英語を使おうという気持ちは常に持つようにしていた。それでもなお、正直その気持ちが薄れる期間があったり、スキルを伸ばそうという気持ちがあまりない日本人の他の学生に私の気持ちが寄って行ってしまったりする時もあった。

参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）

ELA 内は、いつでもどんな話題でも相談できるスタッフが複数人いて、環境は十分整っていたと思う。現地学生チューターによる支援はあまりなく、参加学生同士の協力はとても強力で会ったと思う。しかし、日本人の割合があまりにも多いため、日本語での会話になってしまうケースが多く、語学留学という観点からはあまり良くないことが起こっているなという認識は常に感じていた。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など）

4技能の中で、特にリスニングとスピーキングの能力は向上したように感じる。英語話者にためらいなく話しかけたり、文法などの間違いを恐れずにとりあえず言ってみたり、それがだんだん文章で言えるようになって言ったりと、母語でない言語（英語）で人と交流する際の壁はだいぶなくなったと思う。外国人との交流という観点では、オークランド大の日本との国際交流サークルのような団体に飛び込み、そこで話したインド人に日本の音楽を紹介したり、Meet2chat で会った同じ ELA 生徒のコロンビア人と博物館に行ったりした。またオークランド大学に通う日本人の人と仲良くなった（日本語で会話したが）。学習方法は、いろいろ試したが、YouTube で英語話者向けの普通のエンタメ動画の中で自分が気に入ったものを見る方法は、ハマりやすく、頑張っただけ勉強している認識があまりないのでおすすめだと思った。また、英語学習専用の Google アカウントを作り、そこでは英語での検索しか行わないことで、おすすめの動画も英語のものになり、英語だけの環境にすることができたので、これも有用だと思う。

プログラム参加費・渡航費等の費用について（プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）

参加費は、妥当だなという感じがした。授業や講師、環境などはとてもしっかりしたものであったためである。また渡航費についても、そもそも航空機の費用が高額であるという不満を除けば妥当なものであると思う。

次年度の参加者へのアドバイス

語学レベルにあまり自信がない方には、この留学をおすすめします。日本人がある程度いて、初めての留学としてはとても適したレベルなのではないかと思うからです。一方、ある程度自分の語学レベルに自信がある方は、他のプログラムや時期をずらした参加などをおすすめします。現地の人々との交流が少なく、英語を使う機会が他の留学よりも減ってしまうおそれがあるためです。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
留学に行きたい思いがあったが、初めての海外なので治安がいいと聞いていたニュージーランドでの留学プログラムを選びました。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など)
英語の授業は大学ではもうほとんど受けていなかったため英単語帳や文法書を少し読み直しました。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
朝8:15～10:15でレッスン1、10:30～12:30でレッスン2の授業でした。レッスン1では文法メインの授業でレッスン2ではスピーキング、リスニングがメインの授業でした。講師はそれぞれ違う講師で、レッスン2の先生の方がアイルランド出身で聞き取りづらかったです。クラスの人数は20人で、そのうち日本人学生が17人、中国人、韓国人、タイ人がそれぞれ1人ずつのクラスでした。授業中のテキストはもちろん、日本人学生との会話もすべて英語であふれているため、日に日に英語の読み聞きができるようになっていくのを感じることができました。毎日のスピーキングで、ミスを恐れないことが一番大事ということを知ってから、発言を多くするようになり自分の英語力の向上につながりました。日本の授業との違いは、テキストも英語であるから、文法の説明が英語のニュアンスでそのまま理解できることです。宿題はほとんどなかったです。毎週末にはプレゼン発表があり、クラスの前で英語で発表することが初めての経験であり、いい学びになりました。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
ラグビーの試合で、ニュージーランド代表のオールブラックスを生で見たことが印象的でした。また、地元で作られたワインの試飲も非常に楽しかったです。
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など)
ホストファザーはインド人でホストマザーはロシア人でした。3歳のこどもが1人いました。また、ルームメイトには日本人学生がもう1人いました。朝食は家にある食材を自由につかって準備していいので、基本トーストを食べました。夜はマザーが作ったご飯をみんなで食べます。ご飯の時間は6時前後であることが多く、日本よりも早いと感じました。友達のファミリーでもその時間であることが多く、それがニュージーランドでは普通なのだとわかりました。ご飯は日本のお米が出ることはほとんどなく、小麦を使った

ものが多かったです。最初の2週間くらいはあまり海外での生活に慣れることができなかつたけれど、そこからは楽しく生活できました。基本的に安全でしたが、一部の地域では少し怖い人が多く、危険を感じることもありました。現地の電車が日本に比べて非常に遅かったのが印象的です。

参加学生のサポート体制について(プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など)

困ったことがあったら、同じ京大から参加している人に相談することが多かったです。学校の先生に頼る相談事は特になかったです。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果(英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など)

圧倒的にリスニング力が向上しました。毎日英語を聞き続けたことで、どんどん慣れていったのだと思います。その次に伸びたのはスピーキング力です。英語を聞くのと同時に、ご飯の注文までも英語で行わなければならなかったのも、強制的に英語を話さなければならない時間が増えたので、それが向上につながったのだと思う。授業中でわからない単語が出た時は、ノートに日本語訳を書くのではなく英語でその単語を説明することが英語として理解することにつながられたと思います。ホストファミリーとの会話を通して、学校で習う英語よりも、日常会話で使う英語を学べたと思います。うまく言葉が出なかったときに教えてもらえると、それが次話するときには使えるようになっていきました。ニュージーランドは多民族国家であるため、たくさんの人種の人が住んでいました。ナイトマーケットではアジアのごはんや島国のごはんを、家ではラムやデザートでニュージーランドの食文化を学べました。他国の参加者と英語でコミュニケーションをとると、発音の仕方に癖がとてもあり、出身国によっての違いに驚きました。

プログラム参加費・渡航費等の費用について(プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど)

ほかの大学の参加学生よりも京大生の値段は高かったです。物価は日本よりも高いが、その分給料も日本よりも高いことがわかりました。

次年度の参加者へのアドバイス

英語を話せない状態でも伸びを感じられると思いますが、ある程度話せるようになってから留学に行く方が、会話の中での学びが多くなると思います。他国出身のクラスメートとたくさんコミュニケーションを取った方がいいです。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
大学入学以前より留学願望はあり、本プログラムが自分の英語の実力にもっとも適したプログラムだと感じたため。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など)
渡航先国の治安や災害、気候や文化などの情報収集を行った。また以前同プログラムに参加した先輩方のレビューを読むなどし、どのような生活なのかをある程度想定した。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
授業では個人的経験や趣味などといった自分のことについて話す機会がとても多かったと感じた。特にアイデンティティについて考える授業では自分のアイデンティティを形成している要素として何が考えられるのかを自分の経験などを通して話し合ったが、日本では個人的経験や考えについてそこまで深く自分を曝け出して話す機会がないため貴重な体験になったと感じた。またその他にはオークランドの街を歩くツアーを企画しようという授業が印象に残った。この授業では実際に自分がオークランド市内を歩き回り、歴史的建造物や作品などおすすめのポイントをツアーとして紹介したが、同じグループになったクラスメイトと街を歩きながら話し合って紹介する場所を選ぶ作業が楽しかった。オークランドには歴史的建造物やランドマークとなるものが多く、それらについて学ぶことができた点も興味深かった。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
マウントイーデンにアクティビティとして登ったが偶然ラグビーのアルゼンチン代表の関係者に会うことができ、とても貴重な体験となった。また山頂からの景色も綺麗だった。
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など)
ホストファミリーはとても優しく比較的自由に生活出来たが、シャワーの時間が夜9時まで5分以内と言われていたため時間を実際に測られるわけではなかったがその点だけ少し厳しいと感じた。その他はご飯も美味しくご飯の際は積極的に会話してくれたため楽しく過ごすことができた。ニュージーランドは様々な人種の人々が暮らしているためアジア系だからといって特に差別されることもなく、むしろアジア料理店が多かったりアジア系の人が多くする地域があったりとカルチャーショックも特に感じなかった。また治安もとても良かったためトラブルや安全面での心配事も特になく過ごすことができた。

参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）

スクールアクティビティとして行われていた現地学生との交流アクティビティに何度か参加したが、現地の学生とのコミュニケーションを取ることができたほか、同じプログラムの日本以外の国からの参加者との交流もすることができたためとても良かった。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など）

プログラムに参加したことでリスニング力が向上したと感じた。英語は話者の出身地により発音が大きく異なるが、今回のプログラムで様々な国の訛りのある英語に触れたことで今までより英語を聞き取る力がついた。さらに、話さないと何も伝わらないため臆せずとにかく話してみるという勇気も得ることができたと感じた。自分が何か聞きたいことがあるときに積極的に話しかけるのはもちろんのこと、お店などで話しかけられたとき、レストランで注文を聞かれたときなど咄嗟に何か話すことが生活していく中で大切であると学んだため、そこから素早く反応することを心がけることができた。また私の場合、ホストファミリーが英語や文化についてよく教えてくれたため、自分が実際に生活する中で疑問に思ったことや授業で学んでわからなかったことなどをホストファミリーに聞くことでより理解を深めることができた。発音などについてもネイティブの人に聞きそれを真似することが一番有効であると感じ、ホストファミリーが教えてくれるという環境にあったため発音についても向上させることができた。

プログラム参加費・渡航費等の費用について(プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど)

決して安いとはいえないと感じた。他の大学でもっと費用を抑えてきている子が多かったためそのように感じたが、飛行機や保険などを楽に準備することができ一ヶ月という時間を大学生の間で外国で過ごす経験はなかなかできないため、今しかできないことができるという点では妥当ともいえると思う。

次年度の参加者へのアドバイス

寒いことを恐れすぎてかなり多めの上着を持っていったが、いらなかったと感じたため服は上着含めあまり多くなくて良いと思います。また現地では現地のブランドの服などもあり結局買いたくなるので自分が思っているより少ない方がお土産も買えるしおすすめです。あとは家で履く用のスリッパとレインコートは持って行って良かったと感じました。お昼ご飯は毎回外食だと費用が嵩むので、スーパーで食材買って軽くサンドなど作って持っていくととてもコストが抑えられるのでこれもかなりおすすめです。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
自身の英語力を高めるためにも留学に行きたいと考えており、時間にゆとりがある今の時期にあるこのプログラムを選びました。大学から助成金が出ることや約4週間という長すぎず短すぎない期間海外で過ごせることも魅力的でした。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など)
現地は冬ということもあり、防寒グッズをいくつか用意しました。また、自分の携帯が現地で国際電話ができるものであるかはsimカードや携帯の契約内容にも変わってくるため、その確認には少し手間がかかったように思います。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
現地学校では日本人の学生がほとんどを占めていました。私のクラスは20人程度で大半が日本人でしたが、中国、タイ、コロンビアから来ている生徒もいました。クラスは事前に日本で受けたプレースメントテストをもとに分類され、オリエンテーションがある登校初日に紙でそれぞれ自分のクラスを知らされました。授業は2時間ずつ2コマあり、1コマ目は文法、2コマ目はspeakingを重点的に行いましたが、どちらも常に英語で話すことが求められました。どちらのクラスでも、講師に当てられて自分の意見を述べたり、ペアになって出されたお題について会話したりしました。基本的に受け身な授業ではなく、生徒が自ら発信したりクラスメイトと話し合ったりする場面が多いものでした。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
ランダムに分けられたグループで、ニュース番組もどきのプレゼンをおこなったのが特に楽しかったです。構想を練る際も英語で意思疎通をとらなければならなかったため、お互い自分なりの英語で自分の考えを伝える良い機会だったと思います。
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など)
ホストファミリーはマオリの家族で、小さな子どもが二人おりとても賑やかでした。私の他に同じ現地学校へ通う他大の日本人留学生が二人いて、その人達とも仲良くなれました。子どもの話す英語は訛りや速さの関係で特に聞き取りにくかったのですが、聞き取れた時や自分の英語が伝わった時はとても嬉しかったです。週末や誰かが誕生日の時は家族でピザやケーキを食べたり、最終日にはお土産をくれたり、とてもアッ

トホームな家庭でした。学生にはそれぞれ自室が与えられましたが、部屋には暖房がついていなかったため、防寒グッズを多く持っていくことをおすすめします。またステイ先にはドライヤーがなかったため、日本から持ってきていてよかったです。

私のクラスは午前中で授業が終わったので、午後はオークランド市内の観光をしたりステイ先の子どもたちと触れ合ったりして過ごしました。また、現地の人はバスを降りる時に必ずドライバーの方にお礼を言っており、フレンドリーで穏やかな印象が強かったです。

参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）

緊急時にかけるべき連絡先が書いてあるプリントや小さな冊子が事前に配られたので、なくさないように保管していました。学校にもクラスの変更などの要望・相談を伝えられるレセプションがありました。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など）

今回のニュージーランドでの生活を通じて、英語を話すことのハードルは確実に下がったと感じます。日本にいる時は友達と話す場合はもちろん日本語ですし、英語を話す機会は授業などに限られてきます。それに対して、現地で友達やホストファミリーに完璧でなくても自分の考えを英語で伝える、という経験は日本ではあまりできない実に貴重なものでした。また、ホストファミリーの話す英語はとても速く聞き取れない部分もありましたが、何度も聞き返したり「こういうことですか？」と拙い英語で確認したりしたのも良い経験になったと感じます。ネイティブの速い英語を日常的に聞くことは、リスニング力の向上にも繋がりました。そしてとにかく相手に伝わればいい、をモットーに積極的に英語を話す姿勢が大事なのだと感じました。

プログラム参加費・渡航費等の費用について(プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど)

費用は高額ではありましたが、ニュージーランドという地で様々な経験をすることができたため、行ってよかったと強く思っています。

次年度の参加者へのアドバイス

自身の携帯で国際通話ができるかの確認は早めにするべきだと思います。また、現地の家には暖房がついていないところも多く朝晩は冷えるので防寒対策もしていた方が良いでしょう。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
欧米圏に興味があり、その中から、費用(大学からの参加費支援がある)、治安等を考慮して選択した。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など)
ニュージーランドについての一般的な情報はインターネットで、文化や観光地や避けるべき行動などを調べた。渡航の準備については、ACEJから必要な手続等を逐一おせらせしていただいたので、それをもとにできるだけ早く準備を進めた。事前の語学学習については、実用的な英会話の動画を見たり、英語で映画を見るなど、日常的な英語に慣れるようにした。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
二時間の授業が2コマあり、一コマ目は文法やライティングやリスニングを中心に、二コマ目はリスニングを中心に、授業が進んだ。またどちらの授業についてもグループワークが多く、スピーキングの練習の機会がたくさんあった。20人弱のクラスで、時期的なこともあってか日本人が半数以上だった。ほかの日本人も英語のレベルもおおよそ同じくらいで、授業についていけないといったことはなかった。また、中国人や韓国人の参加学生もおり、そうした人たちのスピーキング力が非常に高かった。講師も生徒もフレンドリーな人たちばかりで、全体的に授業は和やかな雰囲気だった。ホームワークが出ることはあまりなかったが、簡単なプレゼンテーションを作らなければならないことが何回かあった。繰り返しになるが日本人が多く、日本で受ける英語の授業と同じように感じることもあったが、できるだけほかの国の学生と話すなど心掛けることで、英語を話す機会は作ることができた。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
学校が開催しているアクティビティについては、数回参加したがそのなかでもオークランド大学のキャンパスツアーが印象に残っている。大学の施設などについて詳しい説明が聞けるとともにツアーに参加しないと行くことがなかったであろう建物なども見ることができた。
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など)
ホストファミリーの方は子供がおり、いつも忙しそうだったがとてもやさしく、何か要望を言えば対応してくれた。また英語のアクセントが独特で、少し聞き取りづらいときはあったが、様々な会話をしてくれた。日本人の友人もたくさんできたが、日本語を話しすぎないように、学校では日本人同士でもできるだけ英語

を話すようにするなどした。また、ほかの国の学生とも仲良くなり、放課後や休日と一緒に出かけたりもした。そうした際は当然英語でしか会話できないので、非常に有意義な時間となった。日常的な面については、街の雰囲気は非常に良く、日本ほど周りの人を気にしすぎず自由に人々が行動しているのも、心地よかった。また、店の人やそれ以外の場所で会う人もやさしい人が多く、つたない英語でも丁寧に接してくれる人ばかりだった。物価が日本より高く、食事は野菜が基本的に少ない。

参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）

ACEJ の方は、情報のアップデートなどがあれば、その都度メールをもらえたので留学前も留学中も安心して過ごすことができた。大きな問題が起こることはなく、現地学校の職員の方と個別的にかわることはほとんどなかったが、初日のオリエンテーションでサポート体制についての丁寧な説明があり、安心できた。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など）

英語の4技能については、特にリスニングとスピーキングの能力が向上したと感じる。文法の授業はすでに知っていることが多かった。ただ、当然授業はすべて英語で進むので、リスニング能力やスピーキング能力は必然的に向上したと感じる。また、ホストファミリーをはじめとする現地の人々と会話することは非常に有効な実践的練習だったと感じる。授業中の先生の英語は良くも悪くも綺麗で正しい英語なので、町中の人と話すことで、実際に使われている英語特有の表現などに触れることができた。ホストマザーとの会話では、ニュージーランドの文化を教えてもらうと同時に、日本文化をたくさん紹介でき、異文化交流ができた。さらに、他国の参加学生ともたくさん会話する中で異文化交流ができた。日本人参加学生をはじめ他国参加学生との間にも、新たなネットワークを作ることができた。また、放課後や休日に様々な場所に訪れたが、そこで出会うものすべてが新鮮で、日本では経験できないことをたくさんでき、貴重な経験になった。

プログラム参加費・渡航費等の費用について（プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）

プログラム費用は少し高く感じたが、大きな問題もなくプログラムを終えることができた分の費用だと考えると、満足している。また、単なる旅行では体験できないことがたくさんあったので、少し高いお金を出しても、行く価値はあったと感じる。

次年度の参加者へのアドバイス

日本人の参加者が多いので、日本人だけで固まって行動してしまい、その環境に安住したくなってしまうかもしれないが、それは非常にもったいないので、積極的に英語を使わなければならない状況を作るとよいと思う。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
大学に入学して以降英語学習に割く時間が減っており、今後の学習のモチベーションにしたいと思ったことと、交換留学を本格的に視野に入れ始めたものの海外経験が一度もなく、また実際に英語で会話をする経験がほぼなかったことから英語圏での語学研修の参加を検討し始めた。その中でも、(1)一ヶ月という期間が日本の外での生活を体験する機会として適切であると考えたこと(2)初めての海外渡航にあたり、時差によるストレスが少ないと想定されたこと(3)夏休みの期間に開催されていたことから本プログラムを選択した。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など)
なによりストレスなく研修に参加できることを優先に考えていたため、生活面でのトラブルが起こらないよう生活習慣(食事、洗濯、入浴など)や現地の気温、天気については事前によく確認し、日本から持ち込むものと現地で購入するものに分けて細かくリストアップした。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
生徒側が言葉を発する機会が段違いに多いと感じた。リーディング教材をもとにした小さなディスカッションや意見交換に始まり、それを全体場で発表する、講師の側からの問いかけに自由に答える場などが授業中で自然に何度も設定されている。受講者にとって、自分の思考を英語でアウトプットする練習になるだけでなく英語表現のアウトプット練習にもなっていた。また、その日にアウトプットできなかったことがその日の復習でインプット可能なため、体験に基づいた学習が可能であった。基本的に発言は自発性が尊重されるため、積極性があるほどアウトプットの機会も増え、自分でさらに有意義なものに作り上げていくことができたのは印象的な経験だった。全員がお互いを英語学習者であると理解しているので、間違えることに対する抵抗感がかなり低く、講師も間違った表現なども少しずつ訂正しながら発言を授業に組み込んでくださるため発言のしやすい環境であったと思う。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
学校主催の山登りや、フェリーに乗るイベントに参加した。(一緒に参加するメンバーにもよるものの)英語で話す時間が授業外でも増えること、友達ができること、観光になるため思い出作りになることなどから、来年度以降の参加者にもおすすめしたい。学校から付き添いでスタッフの方が来てくださるので、安心して参加できる点も良かったと感じている。
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など)
私がお世話になったホストファミリーにはご夫婦と未就学の兄妹が暮らしており、ホストマザーが子供達に話しかける優しい英語や子供達が見ている子ども向けの教材が自分にとってもゼロから触れ直すような経験になりありがたかった。また、子供達が就寝後はニュースやバラエティ番組、スポーツを一緒に観ることがあり、感想を言い合うなどよいコミュニケーションをとってくださったと感じている。また、一ヶ月同じ

家で生活させていただくにあたって、ホストファミリーとの意思疎通に言葉だけでは不安だったので、文法や発音を正しく使うことで伝えようとする努力とは別に、ジェスチャーや表情をわかりやすくするなど非言語コミュニケーションも積極的に活用するようにしていた。このプログラムで参加するコースが academic English でなく general English のコースであることもあり、英語はコミュニケーションのツールであるという意識である。ホストファミリーを含め、現地の多くの方はよく汲み取ってくださるので、適切な言葉遣いや単語が出てこなくても別の方法を模索でき、安心して色々なコミュニケーションを取ることができた。

参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）

初日のオリエンテーションにおいて、細かく場合分けしたトラブルに対する対処法を学校の方から提示してくださったのがわかりやすかった。土日は学校が開いていないため、その間に起こることについては少々不安があったものの、ホストファミリーにいつでも連絡を取れる状況であったこと、クラスメイトと連絡先を交換していたことから問題なく過ごすことができた。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など）

咄嗟に出る表現や形容詞の幅などが増えた。授業で発表しなかったが単語や発音の問題で発言できなかったこと、ホストファミリーとの会話で伝えられなかったことをその場で記録し、寝る前に確認してインプットするようにしていた。特にホストファミリーとの会話においては日常的な単語が使いまわされることも多かったので、そういった方法でレパートリーを増やすことは会話の維持に役立ったと感じている。自分の経験に即した学びは抜けづらいので、効果の大きい学習法であると思う。また、途中から会話のレスポンスが大事であると個人的に考え、ホストファミリーに「こういったときはこういった反応をするのか」と直接に聞いてみることで、コミュニケーションツールとして英語を活用できるようにしていた。スピーキング能力について向上したとまでは言えず今後の努力次第だろうが、英語を使う抵抗感が格段に無くなったなどの変化は感じており、英語学習のまず足がかりとしてよい成果が得られたと感じている。

プログラム参加費・渡航費等の費用について(プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど)

プログラム代、事前準備、渡航費、あちらでの生活費などを含め、125万円ほどとなり、私は家族だけでなく親族からも支援を受けて参加した。その際に目標は「英語を話せるようになること」ではなく今後の学習や留学に対する足がかりにすることであり、現地の環境を体験することであると説明していたのだが、これらの目標を達成できるだけのプログラムであったと感じている。費用は確実に高額であり、また比較対象がないので難しいのだが、午前中は授業で英語の学びが担保され、午後は自主的に経験を積むことができるという点でプログラムの質は保証されていると言えるのではないかと。

次年度の参加者へのアドバイス

夏に参加する場合、時期の問題で日本人が多くなることはどうしようもない。自分の思い描いた環境とは少し異なるかもしれないが、その中でもいかに機会を潰さないかが一ヶ月間の成果を左右すると思われるので、特に英語話者と長く会話ができる授業中と家でのホストファミリーとの会話にはエネルギーを割くのが良いと思う。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど) 指定なし
自分の英語力を実際の生活の中で試して実践してみたいと思い参加しました。またニュージーランドは気候が穏やかで自然が多く勉強に集中できると思いました。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など) 指定なし
ニュージーランドの文化的歴史的な背景を知りたいと思いネットで調べました。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど) 300字以上
一日のうち午前中のみ授業であったので、午後には博物館やハイキングなど観光をしたりしていました。学校は仕方ないことかもしれませんが、日本人が多く、クラスごとに差があると思いますが体感で8割近く日本人だったので少し事前に想像していた留学と違うなと思いました。授業では文法や語彙力、長文読解中心の授業とディスカッションやプレゼンテーション中心の授業の2コマでした。宿題はあまり出ず、単語テストの勉強やプレゼンのパワポづくりなどがたまにあった程度でした。授業中でも生徒同士で話し合ったり学んでいくことが多くアクティブラーニング形式だったのはよかったです。また先生方やELAの事務スタッフの方も親切だったので、生活や学校に不安を感じることはあまりありませんでした。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など) 指定なし
土日に南島に出かけたことがいい思い出です。きれいで雄大な自然を楽しめました
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など) 200文字以上
現地の方はフレンドリーな方が多く、飛行機やバスで隣り合っただけの人と仲良くいろいろ話して友達になるみたいなことがよく合って住んでいて楽しかったです。治安も大変よくスリなどの被害は周りの友人含めて一切なかったです。ホストファミリーの方はヒンドゥー教徒の方で文化的な差を感じることは多々ありましたが、それでも親切にしてくださって楽しかったです。ただ食文化の面で、どうしても野菜を食べる機会が減ってしまったのは少しつらかったです。
参加学生のサポート体制について(プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支

援、参加学生同士の協力など) **指定なし**

毎週末安否確認のメールが来たり、自分は特に利用することはなかったが、なにか悩みがあった人は相談しやすい環境であったと思う。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果(英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など) **300文字以上**

自分は発音に全然自信がなくて、自分の英語が通じるか不安だったが、意外と通じて驚きました。また留学が終わるところようやく少しリスニングの力が上がった気がしました。しかし英語力の向上を感じ始めたくらいで帰国となったので、もう少しだけ滞在を延長したかったです。日本の文化と違って自分の主張をはっきりとする必要があったので個人的には新鮮でした。自分の中の常識と外国の方の文化に照らし合わせた常識を比べながら異文化交流や外国の交流をするのがすごく楽しくていい経験になったと思いました。今まで漠然とした意識の中で英語の勉強をしてきましたが、留学を経て外国の方とずっと交流したいと思うようになり、そうした意識を語学学習のモチベーションに変えてこの先も勉強出来たらいいなと感じました。

プログラム参加費・渡航費等の費用について(プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど) **指定なし**

費用分だけの価値は体験できたと思う

次年度の参加者へのアドバイス **指定なし**

初めての留学だったりする方は緊張や不安を感じるかもしれないが、心配せずとも楽しく過ごせると思う。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
他の欧米諸国より安価だったため
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など)
オンライン英会話、ニュージーランドの現地情報収集

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
ニュージーランドでの語学研修で、特に印象に残ったのは授業の進め方と参加者の多様性です。1日のスケジュールは、午前中に文法やリスニング、リーディングの基本的なスキルを学び、午後はディスカッションやプレゼンテーションを通じて、実践的な英語力を鍛える形式が多かったです。講師は生徒一人一人に積極的に関わり、わかりやすい例を使って説明してくれました。参加学生も多国籍で、異文化交流が自然と進む環境が整っていました。ホームワークは、リスニングやスピーキングの練習が中心で、日本の授業に比べて、アウトプットの機会が非常に多いと感じました。特に、自己表現を重視した課題が多く、ディスカッションやプレゼンテーションのスキルを磨くために実践的なタスクが課される点が印象的でした。日本の座学中心の授業と比べて、ニュージーランドの授業は実践的で、よりコミュニケーションに重きを置いているのが大きな違いでした。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
オールブラックスの試合観戦
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など)
ニュージーランドでの生活では、現地の人々や他の参加者との交流が豊かで、特にホストファミリーとの時間が印象に残りました。彼らはとても親切で、食事や生活習慣について丁寧に教えてくれました。滞在先の環境は自然豊かでリラックスできる一方、最初は英語や文化の違いにカルチャーショックを感じました。特に食文化や日常の挨拶が日本と異なり、戸惑うこともありましたが、徐々に慣れてきました。安全面では治安が良く、安心して生活できましたが、初めての場所での移動やコミュニケーションには慎重さが求められました。
参加学生のサポート体制について(プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など)
ニュージーランドの語学研修プログラムでは、参加学生へのサポート体制が非常に充実していました。

プログラムコーディネーターは、初日からオリエンテーションを通じて現地での生活や授業について詳細な説明を行い、困ったことがあればいつでも相談できる環境を整えてくれました。特に、学業面だけでなく生活面のサポートも手厚く、ホームステイ先や交通機関の利用方法など、細かな部分までアドバイスがありました。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など）

ニュージーランドの語学研修プログラムで得た成果は、英語の4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）の全てにおいて向上を実感しました。特にスピーキングとリスニングの能力が飛躍的に伸び、日常会話だけでなく、ディスカッションやプレゼンテーションにも自信を持てるようになりました。授業でのディスカッションやホストファミリーとの会話を通じて、自然な英語表現を学ぶことができました。また、異文化理解も深まり、現地の学生や他国からの参加者との交流を通じて、多様な価値観や生活様式に触れました。多国籍の仲間とのネットワークが広がり、異なる文化背景を持つ人々とのコミュニケーションの重要性を学びました。有効だった学習方法としては、日常的に英語を使う環境を最大限に活かすことや、ディスカッションやプレゼンの準備で実際に声に出して練習することが効果的でした。これにより、自信と実践力が身につきました。

プログラム参加費・渡航費等の費用について(プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど)

ニュージーランドの語学研修プログラムの参加費や渡航費は決して安くはありませんでしたが、プログラム内容や現地で得た経験を考えると、その費用に見合う価値が十分にあったと感じました。授業では実践的な英語を学べ、リスニングやスピーキングのスキルが格段に向上しました。また、現地の文化を深く理解し、多国籍の参加者や現地の学生との交流を通じて、新しい視点や価値観を得ることができたことは、教室内だけでは得られない大きな経験でした。

次年度の参加者へのアドバイス

次年度のニュージーランド語学研修に参加する方へのアドバイスとして、まず積極的に英語を使うことが重要です。授業だけでなく、ホストファミリーや他国の参加者との日常会話でも、できるだけ英語を使うことで、自然な表現や言い回しを学ぶことができます。完璧である必要はなく、間違いを恐れずに発言することで、英語力が大きく向上します。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど) 指定なし
もともとは交換留学に応募しようと考えていたのですが、準備を進めていくにつれて今の自分の英語力では現地の大学の講義についていけないと判断しました。そこで、まずは語学留学をすることで英語力を高めると同時に海外で生活することがどのようなものか体験してみようと考えました。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など) 指定なし
プレースメントテスト対策は特に行いませんでしたが、渡航先の気候や地理についてはある程度調べていきました。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど) 300字以上
授業開始が朝の8時頃だったので、日本にいるときよりもかなり早寝早起きの習慣が身につきました。授業はディスカッション形式でリスニング・スピーキング能力の向上にかなり役立ちましたが、リーディング・ライティングに関してはそこまで演習量は多くなかった印象です。また、講師の英語も聞き取りやすく、理解しやすいものでした。他の国々からも学生が来ているので、海外の友達ができるというのも魅力ではありますが、クラスによっては半数以上が日本人になることもあるのでそれは残念でした。しかし、英語力に自信がない場合には日本人の学生と助け合って授業を受けられるというメリットもあるのかなと思います。課題の量はそこまで多くなく、課題で生活が切羽詰まるということもありませんでした。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など) 指定なし
私自身は大学が主催するアクティビティにそこまで参加していなかったので何とも言えませんが、アクティビティに参加することでより多くの友達が得られるという印象は感じました。
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など) 200文字以上

ニュージーランドは気候も穏やかで人も親切だったので、生活の中で不安感やストレスを感じることはあまりありませんでした。ホストファミリーの方も私の生活に目をかけてくださっていたので安心して生活することができました。また、ホストファミリーの方はとても気さくな方で、いろいろ話をしていく中で自分の英会話力が向上していったという実感があります。ELA の学生はオークランド大学のサークルやイベントに参加することができるので、自分も国際交流イベントに2回ほど参加させていただきました。

参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）**指定なし**

ELA では授業に関することや生活に関することを相談できるスタッフがいるのでサポート体制としては十分だったと感じています。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など）**300文字以上**

大学での授業ではさまざまな話題について対話を行い、スピーキング能力の向上に大きく役立ったと感じています。加えて、自分にとってはホストファミリーとの会話が自分の英語力の向上に大きく役立ちました。私のホストファミリーのホストファザーは、政治情勢や哲学的な話題に非常に興味を持った方で、私が大学で学んでいる内容を踏まえてさまざまな議論を投げかけてくれました。その中で、ニュージーランドの先住民であるマオリ族との関係やニュージーランドの歴史についても詳しく知ることができました。また、1か月間生活する中で、ニュージーランドの人々の習慣や食生活、メンタリティについても触れることができたのは自分のこれからの人生にとっても大きな収穫だったと感じています。

プログラム参加費・渡航費等の費用について（プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）**指定なし**

渡航費は日本近辺の諸外国に比べてかなり高くつくところはあると感じますが、それなりの価値はあったと感じています。

次年度の参加者へのアドバイス**指定なし**

ある程度日常英会話フレーズを覚えてから渡航するとホストファミリーとの生活もより円満になると思います。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
京大から支援金がもらえることに加え、英語圏に行ってみたい気持ちが強く、プログラムに志望した。他英語圏に比べ、生活費用が比較的安く、それでいて安全なのも理由の一つである。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など)
前々から続けていた語学学習を継続したのに加え、現地での生活に困らないよう、情報収集に努めた。現地での生活では、日本よりも不便を被ることも多いと予想し、生活用品を多く買い揃えて出国した。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
平日のスケジュールとしては基本的に午前中に授業で、午後はフリーだった。授業は、教材を使った授業2時間と教材などを使わず、実践的に英語を用いる授業の2時間の2部構成だった。授業はもちろん全て英語で、日本よりも積極的な参加、単に発言するだけでなく、教員の問いへの反応についても、積極的に表現するよう求められた。学習内容としては、文法や単語、実践的な会話の練習等で、文法は優しかったのに対し、語彙はわからないものもあり、語彙力のなさを実感した。参加学生は日本人がほとんどで、学生の態度としては、積極性はあまりなく、日本にいた時と同様の態度で授業に臨んでいるように感じられ、そういった態度に対し、教員は時々苛立ちを示しているように見えた。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
アクティビティには特段参加しなかった。生徒数に対し、定員が少なく参加できる人は限られている印象だった。
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など)
ホストファミリーは親切で、料理も美味しく、申し分なかった。特に、学校で習ったことの演習を手伝ってくれたり、ニュージーランドのことを多く教えてくれたりと大変お世話になった。現地の人との交流はホストファミリーと以外ではほとんどなかったが、語学学校へ向かう途中の道の治安がそこまでよくなく、そこを通る際は少し神経質になった。ニュージーランドは比較的安全で、特段カルチャーショックやトラブルはなく、大変快適だった。
参加学生のサポート体制について(プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など)

コーディネーターはまめに連絡をくださった。参加学生間の協力は特になかったように思う。他大学の学生の中には、大変よく連携しておられるところもあり、その理由について伺うと、大学側が渡航にあたり、何度か交流の場を設けていたからだと言っていた。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など）

リスニング力とスピーキング力に改善がみられた。渡航当初は、聞いたことがあるのに意味が出てこないと言ったことが多く、渡航後にアプリを用いて単語を学習した。単語学習は有効で、リスニング力に大きく寄与したように思う。一方で、スピーキングについては初めて出くわす場面で適切な言葉がわからないとのことが多くあり、今後の課題である。現地の学生や他国の参加者との交流の機会は特になかった。一部の学生は現地学生と食事に行っていたため、自分の努力不足の面が大きい。異文化交流については、ホストファミリーのおかげで自分の想定よりもよくできた。ニュージーランドの文化がしただけでなく、ホストファミリーのルーツである、太平洋の島々の文化にも触れられ、大変良い経験となった。

プログラム参加費・渡航費等の費用について(プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど)

ホームステイする分だけ、少し費用は高いように感じた。また、渡航費については、旅行会社を通すよう指示されたため、それに従ったが、結果的に旅行会社を通さずチケットを取った方が安かった様に思え、少し勿体無い気もした。現地の物価は、特に高くなかったので、渡航先の選択肢としてニュージーランドは手の届く範囲にあるように思った。

次年度の参加者へのアドバイス

プログラムを通しては、語学よりもニュージーランドの人々の暮らしや考え方、文化を知る良い機会になると思います。とりあえず海外に行ってみたいという方にはもってこいのプログラムだと思いますが、日本人が少ない環境に行きたい方や本気で英語力を向上させたい方には適さないかもしれません。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
ニュージーランドの治安がいいからです。また、就職活動が終わり、時期が適していました。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など)
日常会話に使えるフレーズを覚えるようにしました。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
ニュージーランドでの授業は、朝にリスニングやリーディングを中心とした講義が行われました。1日のスケジュールは比較的柔軟で、午前中に集中して学習し、午後は自由時間や個別の学びに使うことができました。 参加していた学生は、日本人が多く、全体的に恥ずかしがり屋な生徒が多かったように感じました。ディスカッションの場でも、最初は発言をためらう学生が多かったですが、次第にリラックスし、意見を交換する姿が見られました。 学習内容としては、「成功とは何か」をテーマにした授業が印象的でした。授業の形式はリスニングとリーディングが中心で、成功の定義やそれに至る過程について深く学びました。 日本の授業との大きな違いは、学生が自由に意見を述べられる点と、ゲーム性を取り入れたアクティビティが多いことです。このようなアプローチにより、学びが楽しく、自然にコミュニケーションが促進されました。これらの要素が、授業に対する興味を高めると同時に、理解を深めるのに役立ったと感じています。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
ニュージーランドでの学校では、「Meet Two Chat」というアクティビティに参加しました。通常の授業では日本人以外と関わる機会がほとんどありませんでしたが、このアクティビティを通じて、台湾人の方とお会いすることができました。彼らの積極的に話す姿に大きな感銘を受け、コミュニケーションに対する姿勢を学ぶ良い機会となりました。
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など)
私のホストファミリーはとても優しく、たくさんの関わる機会を提供してくれました。彼らは一緒に映画を見たり、散歩に誘ってくれたり、私が快適に過ごせるように配慮してくれました。また、ホストファミリーは非常に健康的な生活を送っており、毎晩早く寝る習慣があります。このような規則正しい生活を間近で見ることで、私自身の生活習慣についても考え直す良い機会となりました。ホストファミリーとの交流を通じて、日常の中でさまざまな価値観に触れることができたのが非常に印象的でした。また、現地では多国籍な方々が集まる会にも参加しました。そこにはコロンビアやイランから来た参加

者もいて、ニュージーランドがいかに多国籍な国であるかを実感しました。この会を通じて、英語を話せることで自分が今まで知らなかった国々の文化や考え方に触れることができました。異なるバックグラウンドを持つ人々の話を直接聞くことができ、とても刺激的で新たな視野が広がる経験となりました。英語を学ぶことの重要性を改めて感じると同時に、国際交流の楽しさを実感しました。

参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）

利用していません。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など）

このプログラムを通じて、スピーキング力が大幅に向上しました。以前は海外の人と話すことに抵抗を感じていましたが、今では自信を持ってコミュニケーションができるようになりました。また、恐れずに挑戦することの大切さを学び、恐れが成長を妨げていることに気付きました。生活習慣も改善され、朝早く起きて勉強し、自己成長を意識することの大切さを実感しました。さらに、ニュージーランドの多文化主義と日本のそれとの違いに驚きました。ニュージーランドでは、マオリ族が社会に深く浸透しており、マオリ語の語学学校やアニメ、博物館でのマオリショーなど、伝統が現代に受け継がれています。一方で、日本ではアイヌ文化があまり浸透していないように感じました。ニュージーランドでの多文化主義の努力と成果を肌で感じ、自分の視野が広がりました。

プログラム参加費・渡航費等の費用について(プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど)

参加費や渡航費についてですが、私自身でアプライし、航空券を取得すれば60万円で行けることが分かりました。それに対して、acejのプログラムは90万円かかります。確かに多くのサポートがあり助かる点も多いですが、仲介手数料が30万円というのは高すぎると感じました。

次年度の参加者へのアドバイス

ニュージーランドは英語を学ぶには素晴らしい場所です。街の人々は非常に親切で、差別を感じたことは一度もありませんでした。また、壮大な自然に囲まれることで、世界の広さに気付き、視野が広がると思います。1ヶ月という短い期間でしたが、多くのことを学ぶことができました。留学は本当に自分を変える大きなチャンスです。ただし、留学にはお金も時間もかかります。1、2年生という時間もあり、これからの未来も決められるタイミングに行くのがいいと思います。費用については、できるだけ自分で申し込みを行うことで削減できます。「サポート」や「安全」という言葉は、エージェントの方便としてよく使われるので注意しましょう。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
英語の4技能をバランスよく強化できる点、そしてニュージーランドという英語圏でありながら、アジア圏に比較的近い地理的条件が魅力的だったからです。また、オークランドは多文化社会であるため、異文化交流を通して語学以外のスキルも学べると考えました。ELAは現地での評判も良く、安心して学習に専念できる環境が整っていると感じ、参加を希望しました。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など)
プログラムに参加するにあたって、まずニュージーランドの文化や生活習慣、気候に関する情報収集を行いました。また、ビザの取得や渡航に必要な書類の準備、航空券や滞在先の手配を進めました。事前の語学学習としては、日常会話やリスニングを中心にオンライン教材を使用し、また、到着後に行われるプレースメントテストに備えて基本的な文法とライティングの復習を行いました。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
授業は少人数制で、講師は非常に熱心で、個々のレベルに合わせて指導してくれました。講師のフレンドリーさとユーモアもあって、リラックスした雰囲気の中で学べたことが印象的でした。参加学生は世界各国から集まっており、特にアジアからの留学生が多かったです。異なる文化背景を持つクラスメートとのグループワークでは、英語だけでなく異文化理解も深まりました。ホームワークは、日々の学習内容に関連したものが出され、日本の英語授業とは異なり、実践的な内容が多かったです。私のクラスは午後から始まるものだったため、午前中はこれまでの復習や、今日扱う内容の予習の時間として有効に活用していました。復習と予習を平行して行うことによってより知識が固いものに変わっていく実感を得ました。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
プログラム外のアクティビティでは、ニュージーランド特有の自然や文化に触れる機会が多くありました。特に、現地のホストファミリーとの週末旅行で訪れたビーチや、ミルフォードサウンドへの遠足が印象的でした。壮大な自然を目の当たりにし、ニュージーランドの豊かな生態系に感動しました。これらの体験を通じて、教室で学んだ英語を実際に使う機会も増え、英語力向上に役立ちました。
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など)
現地での生活において、ホストファミリーとの関係は難しいものでした。彼らは人種差別的な態度を取ることがあり、文化的な違いに対する理解が不足していると感じました。特に、アジア人に対する偏見を感じる場面がいくつかあり、居心地が悪いこともありました。そのため、ホストファミリーとは深く交流すること

ができず、日常生活でストレスを感じるが多かったです。このような環境の中で、精神的に負担が大きくなることもありましたが、安全面では問題はありませんでした。

参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）

プログラムコーディネーターや現地のチューターは非常に親切で、留学生一人ひとりをしっかりとサポートしてくれました。特に、授業に関する質問や生活に関する相談に対して、迅速かつ丁寧に対応してくれたことが心強かったです。また、同じプログラムに参加している学生同士も非常に協力的で、情報を共有したり、一緒に課題に取り組むことができ、困難な状況でもお互いに助け合いながら進めることができました。さらに私は4週間目でホストファミリーを変更してもらったのですが、問題を報告したその日に次のホストファミリーを紹介してくれたりと迅速に対応してくださりました。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など）

このプログラムを通じて、英語の4技能すべてでスキルアップを実感しました。特に、リスニングとスピーキングの向上が顕著で、日常生活の中で自分の意思を伝えることに自信が持てるようになりました。講師から教わったディスカッションやディベートの方法も、英語での論理的思考を深めるのに役立ちました。また、世界中の参加者との交流を通じて、異文化への理解が深まり、多様な視点を持つことの重要性を学びました。この経験は今後のキャリアや人間関係にも大きな影響を与えると感じています。同じアジア圏から集まった友人であっても感じ方に大きな違いが生じることに驚きを感じるとともに、ダイバーシティを日本社会でも取り入れることが必要になると切に感じました。

プログラム参加費・渡航費等の費用について(プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど)

プログラムの費用や渡航費は決して安くはありませんでしたが、それに見合うだけの価値があったと感じています。プログラム自体の充実度や、現地で得た体験、異文化交流の機会を考えると、費用に対する満足度は高いです。また、学んだ英語スキルや異文化理解は今後も役立つものであり、長期的な投資と考えています。

次年度の参加者へのアドバイス

次年度参加を考えている方には、事前の英語学習に加え、現地の文化や生活習慣についても少し調べておくことをお勧めします。準備をしておくことで、よりスムーズに生活に馴染むことができ、プログラムを最大限に活用することができます。また、授業外のアクティビティや現地の人々との交流を積極的に楽しむことで、さらに多くのことを学べることと思います。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
もともとマルタとニュージーランドの語学研修が気になっていたときに、学校からの支援を受けられる留学先としてニュージーランドの研修があると知ったから、
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など)
渡航先の気候や治安などの基礎情報について調べた。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
クラスメイトが日本の大学に通っている人しかいなかったこと。他のクラスも基本的に日本の大学生が8,9割だったこと。授業内容で、①美術館に行って自由に作品を鑑賞して、その中から気になった作品を選んでその作品の基本情報や自分が受けた印象などについてのプレゼンテーションを行う②自分のアイデンティティについての創作的なポスターを作って、クラスメイトにプレゼンする③人生における成功や失敗に関する幾つかの質問を、ホストファミリーなどの現地に住む知り合いにインタビューして、その内容についてプレゼンする④グループで学校の付近を実際に歩いてみて、人に是非訪れて欲しいと思うところをまとめた walking tour の概要を考えて、さらにその walking tour を人に紹介するチラシを作る。最終的には他のグループとチラシを交換して、他グループの考えた walking tour を実行する⑤現地での一ヶ月の生活をまとめたビデオをペアで制作し、クラスで発表する、等と常にクリエイティビティを求められる授業だったのが刺激的だったこと。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
Mission Bay に行くアクティビティに参加しました。参加者が日本人しかいなかったのが印象的です。
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など)
最初、ホストファミリーに週に二日しか髪を洗ってはいけないと言われてカルチャーショックでした。結局話し合いの結果、二日に一回髪を洗えることになりましたが、お湯を使う時間を指定されるのではなく、髪を洗うか洗わないかを指定されるのは非常に合理的ではないと感じました。夜に駅から家まで20分ほど歩いて帰らなければならない日が何日かありましたが、約80%の確率でリードにつながっていない犬に吠えられて追いかけるという体験をしました。犬は二種類居ました。帰り道、車は見ても歩いている人とは20分間誰も出会いませんでした。私の前に同じホームステイ先にホームステイしていた留学生は、実際に

この犬に足を噛まれたようです。
参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
現地の学校のサポートしてくださる方に、到着初日に図書館の利用に関する質問をしたところ、図書館の方に問い合わせからあなたに連絡をされると言われました。当日中には返信が無く、次の日にもう一度尋ねると、図書館には問い合わせたがまだ返信が無いので、返信が来次第あなたに連絡すると言われましたが、一ヶ月間連絡が来ることはありませんでした。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など）
私のホームステイ先の家族はヒンディー教の信者だったため、ヒンディー教に関する理解が深まりました。また、ホームステイ先に dumb で重度知的障害の子がいて、この子との交流もまた、私の知見を大いに広げてくれました。私にとってこのプログラムで得られた最も大きい成果は、ここでしか出会うことが出来なかったであろうと思われる、非常に馬が合いそしてとても尊敬できる5人の友達と出会えたことです。また、一ヶ月という期間で、自分で気がつくほどの大きな英語力の向上は感じられませんでした。英語を耳にすることや目にすることへの抵抗は消えました。このプログラム中に得られた二番目に大きい成果は、英語の学習をコツコツ続けていこうというモチベーションが生まれたことです。英語を母語として話す人達だけでなく、他の英語学習者とのコミュニケーションとしても英語が非常に重要な鍵であることを改めて実感しました。
プログラム参加費・渡航費等の費用について(プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど)
渡航費について、他の大学からのプログラム参加者は自分でフライトを予約することになっていたため、会社への手数料の分や直行便でないことなどの費用分、非常に安く渡航できていました。
次年度の参加者へのアドバイス
気軽に行ける旅行地として Waiheke Island がとてもおすすめです。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド・オークランド
大学名	University of Auckland, English Language Academy (ELA)
プログラム名	General English
実施期間	2024年8月12日(月)～2024年9月6日(金)

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由(数ある英語プログラムの中でなぜ本プログラムを選択したのかなど)
英語でコミュニケーションをとることに対し不安があったため、英語学習の動機付けとなればと思い参加を決めました。大学からの支援金があることがこのプログラムを選んだ理由の一つです。
参加にあたって、どのような準備を行ったか(例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、事前の語学学習、プレースメントテスト対策など)
ガイドブックなどを用いてニュージーランドについての情報収集を行ったほか、過去の同じプログラムの参加者の報告書を読み、必要だと思えるものを準備しました。英語学習は日常でよく使う単語などをさらった程度でプレースメントテスト対策は特にしませんでした。

3. プログラム参加中について

授業で印象に残ったこと(1日の授業のスケジュール、学習内容や形式、講師・参加学生の様子、ホームワークの内容、日本の授業との違いなど)
私は午前授業があったので、八時半からの授業開始に間に合うように朝早く起きる必要がありました。ホストファミリーの家からバス停まで少し歩くので毎日よい運動になり、健康的な生活を送っていたと思います。授業は十二時半に終わるので午後の時間は学校の友達とランチや観光を楽しみました。午後に十分な時間があることが午前授業の良い点だと思います。授業は文法中心の授業とスピーキング中心の授業に分かれていて、自分の将来や成功とは何かなどをテーマにした授業が特に印象に残っています。宿題は軽いものがほぼ毎日、プレゼン作成のようなものが週に一度ほど課されましたが、クラスによって異なるようでした。日本の授業とは異なり誰でも発言してよい教師との双方向の形式の授業で、ペアワークの多さもあいまって発言の機会が多く与えられた印象があります。
アクティビティで印象に残ったこと(アクティビティの内容、感想など)
授業の中では、オークランド市街のアートを探したり、アートギャラリーへクラスでいったりしたことが印象に残っています。アートについてはあまり考えたことがなかったので、自分の考えを英語を通じて言語化し、友人と話し合うことで新しい視点が見つかったと思います。授業外では、毎日の観光や学校主催のツアー、卓球大会、ラグビー観戦などによってニュージーランドを楽しみつくすことができました。
現地での生活について(参加者や現地の人々との交流、ホストファミリーの様子、滞在先の環境、カルチャーショック、参加中のトラブル、安全面、その他日常生活など)
ニュージーランドの人々はとても優しく、親切であるといった印象を受けました。なかでも私のホストファミリーは自分のつたない英語をしっかりと聞いてくれて、はじめこそ遠慮をしていましたが帰国前に

は家族の一員のようなコミュニケーションをとることができていたと思います。家もとても清潔で、困ったことがあったらいつでも相談できたため快適で充実した生活を送ることができました。同じようにプログラムに参加している日本人の学生も多かったためホームシックになることもありませんでした。学校ではコーヒーなどを無料で飲むことができたり、学生が集まることができるラウンジがあったりして良い環境だったと思います。

参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）

特に問題のない生活だったためあまりサポート体制についてはわかりませんが、わからないことは受付の人に聞けば何でも教えてもらえました。また、学生同士での情報交換は有益だったと思います。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語の4技能の向上、有効だった学習方法、異文化理解・交流、現地学生や他国の参加者とのネットワーク構築など）

英語の技能が一か月の間で飛躍的に成長したというわけではありませんが、海外出身のクラスの友達と話すことなどを通じてスピーキングに対する抵抗感が減ったと思います。また、はじめよりもリスニング能力は高まったと感じました。授業内での学習も重要でためになりましたが、授業外で友達と英語で話した経験が何よりもよい経験になったと思います。最初のほうこそ同じ大学の学生中心でまわっていましたが、後半になるにつれてクラスの同じ人たちと行動することが多くなりました。私たちのクラスはクラスの仲がよかったためクラスで食事に行く機会も何度かあり、様々な人の話を聞くことができました。私は台湾出身の学生と特に仲良くなったので、またクラスで日本か台湾で会う約束をしました。一方で自分の英語力の足りない部分を痛感する瞬間もあり、プログラム参加前よりも英語学習に対するモチベーションが高まりました。

プログラム参加費・渡航費等の費用について（プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）

プログラム参加費は大学からの支援を含めたとしても高額であると感じました。また、自分で飛行機をとることができなかつたので直通便でしたが、もう少し安い飛行機をとることができたのではないかと思います。

次年度の参加者へのアドバイス

プログラム参加前にもっと英語を勉強しておけばより円滑なコミュニケーションをとることができたと思うので、試験勉強が忙しくなる前に勉強をしておくことをお勧めします。また、英語が得意ではないという理由で不安を感じているのならば、一歩踏み出して積極的に行動することが大事だと思います。私も英語はあまり得意ではありませんが、積極的に行動することをこころがけ、かけがえのない経験と友人を得ることができました。行動あるのみです！